

2022 年度 事業報告

施設名 グループホームきぬた

1 利用状況

事業種別： 重度身体障害者グループホーム 定員 5人 入居者数 5人

(1) 障害支援区分

区分6	4人	区分5	1人	区分4	0人	区分3以下	0人
計	5人						

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	1人				1人
	3~4度					0人
	なし	4人				4人
計		5人	0人	0人	0人	5人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	0人	男性	5人
20代	0人	50代	4人	女性	0人
30代	1人	60代以上	0人	計	5人
計			5人		

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

- 世田谷区グループホーム事業補助、及び同運営費補助に基づく、法外のグループホーム事業である。2003年4月に開設し、現在に至る。「利用者一人一人が安心して自分らしく過ごせる自分の居場所であること、将来の夢を語れる場であること」を運営の基本理念とし、個々の支援計画に基づき、平日日中は通所施設を利用し、介護は外部居宅介護事業所が入っている。入居者の生活管理や食事の提供、夜間の対応は、グループホームスタッフがやっている。
- 医療支援については、成城リハケア病院と契約を個々に結び、定期的な訪問診療のほか、急病の時の夜間休日を問わない往診ができる体制になっている。
- 今年度もコロナ禍により、旅行や行事は中止が多かったが、徐々に再開された行事に少しずつ参加できるようになり、思い思いに楽しむことができた。
- 入居者の自治を目指して、結成した入居者の会（ドーナツの会）を今年度2回実施し、個々の近況やグループホーム開所20周年に向けた話し合いなどを重ねた。2023年度20周年を迎えるにあたり、記念に残る旅行などを検討中である。

(2) 地域交流

- 法人格砧町自治会の活動に協力している。今年度は10月に地域防災訓練に参加、「要援護者救

護ブース」を担当し、車いすの操作方法、介護方法などを参加者に説明した。また、12月恒例の「イルミネーションパトロール」や防犯パトロールにも入居者とともに協力した。

- ・ 9月、地域と福祉施設をつなぐ「みんなの屋台」プロジェクトに参加、グループホームきぬたの前庭に屋台を設けて、地域の特産品や近隣施設の製品を販売した。これが近隣のNPOやコミュニティとのコラボに発展し、12月に『ぐるぐるキヌタ』として開催した。2023年度も継続して開催予定で、地域をつなぐイベントとして定着させたい。

(3) 家族、関係機関との連携等

- ・ 『きぬたドーナツ通信』を4回発行し、グループホームきぬたの様子や入居者の近況を家族や関係者に伝えた。また、ホームページでも一部公開し、入居者の生活の様子を発信した。
- ・ 感染防止策を取りながら、家族会を3回実施、入居者の普段の様子と運営状況を報告した。ご家族も高齢化が進み、成年後見申請の手続きなどにも協力した。
- ・ チームケアのために、当ホーム入居者に関わるヘルパー事業所、相談支援事業所などとの連携を大切にしている。とりわけ今年度は、ヘルパーが介護中に起きた事故に対して、事業所と共に原因と再発防止を検証した。
- ・ 都内の重度身体障害者グループホーム連絡会が3年ぶりに開催され、都内の同じ運営状況のグループホームとの情報交換、交流を持つことができた。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 入居者の点字学習を補佐するボランティアに、今年も2名が協力してくれた。
- ・ コロナ禍でボランティアとの交流も中断していたが、今年度は活動を再開したボランティアサークルとの交流会を実施することができた。学生たちとの交流に入居者も大いに盛り上がった。
- ・ 感染に気をつけながら、2法人、1事業所の見学を受け入れた。これからグループホーム建設を予定している法人からの見学が多く、きぬたの特徴をアピールするとともに、今後の協力関係を結ぶことができた。

(5) 危機管理

- ・ 7月と10月に入居者が新型コロナウイルスに感染した際は、昨年作成したマニュアルに沿って対応した。直ちに関係機関に報告、保健所と入院調整を進めたが入院先は見つからず断念、感染対策を取って往診医やヘルパー事業所と連携しながら回復まで約2週間グループホーム内で対応した。対応者を最小限にし、また個室であること、それぞれの居室にトイレや洗面台があり、外から出入りすることができる当ホームの構造は、感染者の完全隔離を行うことができ、感染拡大を防ぐことができた。感染した入居者も慣れた生活の場で安心・安定して過ごすことができた。

(6) 職員研修の実施

- ・ 予定していた「入居者の心とからだについて考える勉強会（ケーススタディ）」のコミュニケーション版は、コロナ禍で延期が続き実施できなかった。
- ・ 今年度法人で導入した動画研修「サポートカレッジ」を各自視聴した。また、「虐待防止」や「メンタルヘルス」、「コミュニケーション」の法人研修に参加した。
- ・ 管理者が「上級救命講習」を受講し、技能認定証を取得した。

(7) その他（苦情・事故等）

【事故】4件

- ・新型コロナウイルスに入居者が感染（2件）→対応マニュアルに沿って対応
- ・ヘルパーが入居者を介護中、突然緊張が強くなりバランスを崩して車いすからずり落ち、頭部を壁にぶつけた。／ヘルパーが入居者を介護中、スリングシートを外す際に勢い余って入居者が頭部を打撲。→ヘルパー事業所と共に原因を検証。障害の理解、介護手順の再確認、ヘルパー・職員間の協力体制の整備などを行った。

【ヒヤリハット事例】9件（誤薬、iPadの置き忘れ、車いすブレーキとリクライニングの操作ミス、財布の返却忘れ、耳掃除の際の出血など）業務内容の再確認、ダブルチェックの徹底などを周知した。

3 重点課題と取り組み・成果

① 入居者それぞれの人生マップを作成し、将来を見越した今の生活を見直す

- 将来を見越した「今」の課題を各自の個別支援計画の中に盛り込んだが、具体的に「マップ」として作るまでには至っていない。引き続き取り組んでいきたい。入居者2名が59歳となり、本人のみならず家族の課題も浮き彫りになってきている。成年後見人センターやあんしんすこやかセンターとの連携や情報共有などを行うことができ、この中で1名の入居者の後見人申請手続きを進めることができた。

② 地域の中で役割を持って暮らし、発信し、より広い人たちと繋がる

- 『きぬたドーナツ通信』やホームページでの発信が定着している。また、砧町自治会の活動（地域防災訓練、防犯パトロール、イルミネーションパトロールなど）に入居者も参加し、積極的に地域と関わることができた。また、今年度『みんなの屋台』プロジェクトに参加、グループホームの前庭に屋台を出して地域住民と交流を持った。更にこれをきっかけに近隣のNPOやコミュニティ（砧村おばちゃん会議）と関係を持つことができ、3者の共催で『ぐるぐるキヌタ』を開催、新たな地域の繋がりを作ることができた。

③ 20周年に向けた準備

- 入居者会（ドーナツの会）の中で入居者と共に話し合いを持ってきた。みんなで旅行に行く、記念誌を作るなど記念に残る取り組みを行うことでは合意が取れている。具体化する取り組みは遅れているが、2023年度早々に取り組んでいく予定である。